

## 米国の粘着製品メーカーを買収

当社グループは4月1日に、米国のデュラマーク社を買収しました。同社はシール・ラベル用粘着製品のさまざまな粘着剤処方や高速塗工に対応した生産設備を有していることに加え、壁面装飾用などのグラフィックフィルムの一貫生産体制を整えているのが特徴で、今回の買収により当社の米国子会社で同業のマックタック・アメリカ社の傘下に入ります。今後、シール・ラベル用粘着製品の生産能力増強による拡販やグラフィックフィルムの内製化によるコスト削減といった相乗効果が期待され、安定成長が続く北米市場における収益拡大を図っていきます。

### ●デュラマーク社の概要

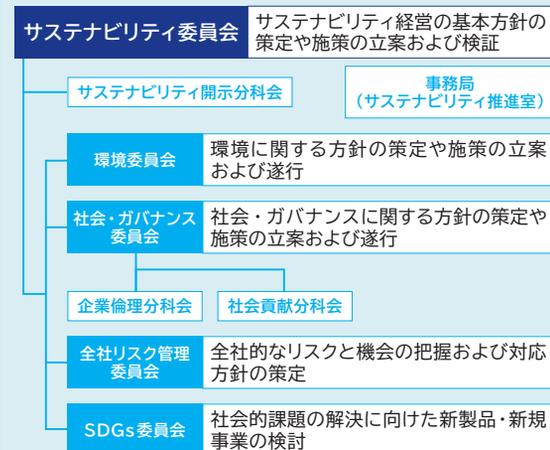
社名：Duramark Products, Inc.  
 (4月8日付でMactac, Inc.に社名変更)  
 創業：1983年  
 所在地：米国サウスカロライナ州  
 事業内容：シール・ラベル用粘着製品、グラフィックフィルムなどの製造販売  
 売上高：76百万USドル(2020年12月期)  
 取得価額：約60百万USドル(取得割合100%)



## 持続可能な社会の実現に向けて活動推進体制を刷新

当社では、これまで推進してきたCSR活動を発展させてサステナビリティへの取り組みを強化するため、この4月に活動推進体制を刷新しました。社長が委員長を務め、社外取締役も参画する「サステナビリティ委員会」を筆頭に、ESGやSDGs、リスク管理などに関する各委員会・分科会を設置した体制に再編。それぞれが幅広い部署のスタッフで構成され、全社的な視点で活動することで社会と共に成長を目指していきます。

### サステナビリティ活動の推進体制



フロントライン  
FRONT LINE

— 最前線 —

各現場の最前線で活躍中の社員を紹介する当コーナー。今回は当社主力製品のシール・ラベル用粘着製品を生産する龍野工場（兵庫県）の技術スタッフをご紹介します。



龍野工場  
製造技術課  
いわい なお  
祝 菜央

2014年に入社し、生産本部龍野工場に配属。研究所で設計された製品を実際の生産機で量産・安定生産するための業務に従事。

Q 現在の仕事について教えてください。

新規開発品の量産化に向けて、粘着剤の塗工や製品の裁断工程における各種条件の検討や品質評価を行っています。そのほか、既存品の改良や生産性の向上なども含め、年間で50件以上の案件に携わっています。特に近年ニーズが高まっている、環境に配慮した無溶剤処方粘着製品を担当することが多いですね。



製品の無溶剤化

通常の粘着製品の製造工程では、粘着剤を塗工する際に有機溶剤を使用します。当社では、有機溶剤を使わない水系粘着剤やホットメルト粘着剤の採用などにより、環境負荷の低減を図っています。

Q 仕事をするうえで課題と感じていることはありますか。

製品に使用されている粘着剤や基材、剥離紙・剥離フィルムといった原材料の知識をさらに身につけていきたいです。素材についての化学的な理論が分かれば、生産条件や仕様の変更を検討する際に、より早く最適な答えにたどり着けるようになると思います。分からないことがあれば、周りの経験豊富な先輩や同僚、研究所のスタッフなどにも積極的に相談するよう心掛けています。

Q どんな時に仕事のやりがいを感じますか。



研究所や営業の担当者と打ち合わせを重ね、機械の調整や材料の見直しなど試行錯誤を繰り返しながら、無事に量産に至った時に一番やりがいを感じます。特にシール・ラベル用粘着製品は、商品の表示ラベルなどに使われることも多いので、自分が手がけた製品を店頭で目にする感慨深いですね。当社は幅広い事業を展開しているので、将来的には他事業の製品や従来とは異なる新規分野の製品の量産技術にも携わってみたいですね。

# 木久扇一門、コロナ時代に立ち向かう!

林家 木久扇

新型コロナウイルスの影響で、上野鈴木演芸場、新宿末廣亭、浅草演芸ホール、池袋演芸場、国立演芸場などで予定していた多くの寄席が休席になり、私たち落語家は収入の道が断たれてしまった。私も落語家生活60年を過ごしてきたが、こんな時代には初めて直面した!えらい事になったものだ。

私は小学1年生の時に空襲を体験していて、昭和20年3月の東京大空襲では、日本橋の実家が焼けた。とにかく毎晩のようにおばあちゃんの手を引き、小学校の地下の防空壕へ逃げ込んで空襲をよける日々で、子供心にいつも死と向き合ってきた。そして現在の新型コロナウイルス。人為的な戦争ではないにしても、この疫病は世界中に広まっている。しかし、制限はされていても交通機関は動いているし、どうしても必要な対面での打ち合わせもある。とにかく細心の注意を払って対処するしかない。

そこでコロナ禍で時間の余った私の生き方。まず、以前から企画していた2冊の単行本を書いて出版した。1冊は「イライラしたら豆を買いなさい 人生のトリセツ 88のことば」という木久扇流の生き方指南本。もう1冊は、雑誌等に連載していた絵と文の「木久扇のチャンバラ大好き人生」。私の心のふるさとは時代劇映画なのであります。また、コロナ禍以前から“チューバー・キクキン”として発信している「キクキンTV」はもう60回を超えて、登録者数も5万6千人に達した。今後は「キクオーTV(仮題)」として発展させる予定。

今年3月16日・17日、明治座にて「林家木久扇 芸能生活60周年記念公演」を行い、春風亭小朝、笑福亭鶴瓶各師匠を豪華ゲストに迎えて、2日間の昼・夜を満席にした。そして4月には、「笑点 放送55周年特別記念展」を新宿高島屋で開催。併設された個展では、私の画家としての作品56点がギャラリーに飾られた。私の



### 林家 木久扇 (はやしや きくおう)

落語家。1937年、東京都日本橋生まれ。1956年に漫画家の清水崑氏へ入門。1960年に三代目 桂三木助門下へ入門し、三木助没後には八代目 林家正蔵門下へ移る。1965年に二ツ目、1973年には真打に昇進。現在は一般社団法人落語協会相談役、公益社団法人俳人協会会員、公益社団法人日本漫画家協会参与。日本テレビの「笑点」では50年以上レギュラーメンバーを務めるほか、歌・絵画・執筆活動など多方面で活躍中。

グッズも、木久蔵ラーメンをはじめ絵ハガキ・本と、いっぱい店を出した。こうして書いてみると、林家木久扇は何と幸せなことかと思えば、つくづく有難い。

林家一門、11人の弟子たちも負けてはいない。昨年4月頃、店頭にはマスク不足で人が並び、大きな社会現象となった。これは商機だとひらめいた林家彦いちは、マスクの供給を考え付く。アウトドア仲間の友人を長野県諏訪市に訪ねて、ポリエチレンのロールを求め、レーザーカッターでカットしてマスクにした。真空詰めのを1日100セット作って送り出したのだ。林家やま彦という若い前座は、諏訪の住み込みとなって製品を作り、東京でそれを後輩の前座、林家きよ彦と林家ひこうきの二人が袋詰めにして「前座マスク」として売り出した。これがテレビでも取り上げられて評判になり、1,500セットを売り上げたそう。

教師の資格を持っている林家ひろ木は、人づてに紹介された横浜の小学校でアル

バイトの非常勤講師をやっている。書道（四段の資格あり）、図工、算数の3科目を教えているそうだ。彼は落語のほかに津軽三味線も弾けるので、伝統文化の時間を作って披露したら先生や生徒たちもビックリし、授業は盛り上がったそう。「面白い先生!」として評判がいいんです」と本人が言う。

九番弟子の林家けい木は、身軽ですばしっこい。彼が生活の糧として見付けた仕事がウーバーイーツ。自転車でリュックを背負って配達する出前である。「どんなものを届けるの?」と聞くと、「タピオカドリンク1杯、ラーメン1杯の時もあるし、スーパーで牛乳やジュース、食品のまとめ買いをして配達することもあります。これは重くて大変です」と言っていた。

まだまだ書ききれないが、林家木久扇一門、各々が知恵を絞って「コロナ何するものぞ!」「コロナなんかに絶対負けるもんか!」と立ち向かい、これからも頑張って落語家を続けてまいります。

コロナ禍で活動が制限される中、今できることに精力的にチャレンジする木久扇さんとお弟子さんたち。リントックも抗ウイルスフィルムやソーシャルディスタンスの確保を呼びかけるフロアマーキングフィルムなど、持ち前の粘着技術を生かした製品を展開し、感染拡大防止に努めています。

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表（要約）

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
流動資産	170,098	163,660
固定資産	110,164	115,311
<b>① 資産合計</b>	<b>280,262</b>	<b>278,972</b>
流動負債	63,506	66,119
固定負債	19,406	20,554
<b>② 負債合計</b>	<b>82,912</b>	<b>86,674</b>
<b>③ 純資産合計</b>	<b>197,350</b>	<b>192,298</b>
負債純資産合計	280,262	278,972

### 連結損益計算書及び 連結包括利益計算書（要約）

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
<b>④ 売上高</b>	<b>235,902</b>	<b>240,727</b>
売上総利益	58,228	58,440
販売費及び 一般管理費	41,198	42,999
<b>⑤ 営業利益</b>	<b>17,030</b>	<b>15,440</b>
経常利益	16,770	14,484
税金等調整前 当期純利益	16,635	13,939
<b>⑥ 親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	<b>11,407</b>	<b>9,620</b>
包括利益	10,619	7,649

### □ポイント！

#### ① 資産合計

たな卸資産、のれんが減少しましたが、現金及び預金、受取手形及び売掛金が増加したことなどにより、総資産は12億90百万円増加しました。

#### ② 負債合計

支払手形及び買掛金が増加しましたが、1年内返済予定の長期借入金が増加したことなどにより、負債は37億61百万円減少しました。

#### ③ 純資産合計

為替換算調整勘定が減少しましたが、利益剰余金、退職給付に係る調整累計額が増加したことなどにより、純資産は50億52百万円増加しました。

#### ④ 売上高

アドバンストマテリアルズ事業部門は増加しましたが、そのほかの事業部門が新型コロナウイルスの感染拡大による需要低迷を受けて減少したことなどにより、売上高は48億24百万円減少しました。

#### ⑤ 営業利益

アドバンストマテリアルズ事業部門の増収効果やパルプ・石化原材料価格の下落などにより、営業利益は15億90百万円増加しました。

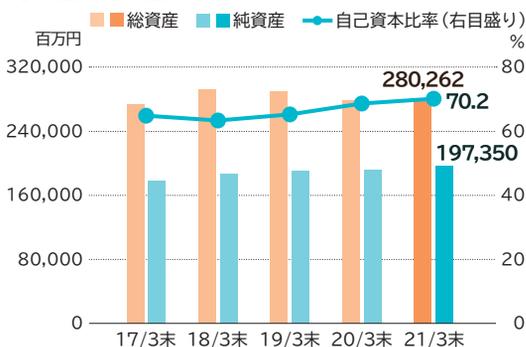
#### ⑥ 親会社株主に帰属する 当期純利益

営業利益の増加に加え、固定資産除却損や減損損失が減少したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は17億86百万円増加しました。

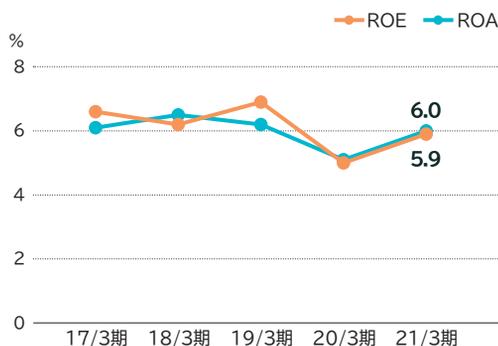
## 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位: 百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
営業活動による キャッシュ・フロー	28,824	18,501
投資活動による キャッシュ・フロー	△8,612	△13,818
財務活動による キャッシュ・フロー	△14,129	△10,284
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△706	△441
現金及び現金同等物の 期末残高	57,636	52,260

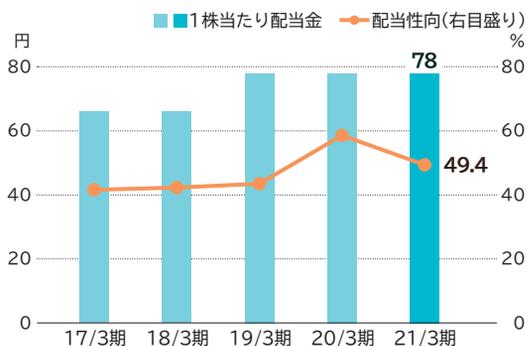
## 総資産・純資産・自己資本比率



## ROE(自己資本当期純利益率)・ROA(総資産経常利益率)



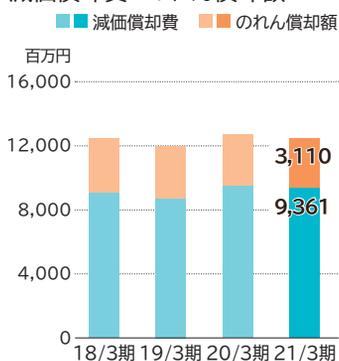
## 1株当たり配当金・配当性向



## 設備投資額



## 減価償却費・のれん償却額



## 研究開発費



## 印刷材・産業工材関連

売上高 **1,157億45百万円** (5.5%減)

営業利益 **△2億39百万円** (—)



当セグメントの事業部門別の売り上げの概況は次のとおりです。

**印刷・情報材事業部門** 売上高 **850億48百万円** (2.0%減)

### 主要製品

- シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム
- バーコードラベル用粘着紙・粘着フィルム

シール・ラベル用粘着製品は、国内では食品や通販関連が堅調だったものの、医薬やコスメ・トイレタリー関連の需要が減少したことにより低調に推移しました。海外においては、米国が堅調だったものの、中国やアセアン地域は低調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ減少しました。



**産業工材事業部門** 売上高 **306億96百万円** (13.8%減)

### 主要製品

- 自動車用粘着製品
- 工業用粘着テープ
- ラベリングマシン
- ウィンドーフィルム
- 屋外看板・広告用フィルム
- 内装用化粧フィルム

二輪を含む自動車用粘着製品やウィンドーフィルムは、第3四半期に入り需要が回復したものの、期前半の落ち込みをカバーするまでには至らず大幅に減少しました。また、各種イベントの延期・中止などに伴い、装飾関連フィルムの需要が低調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ減少しました。



※ セグメント別の営業利益は、セグメント間取引消去前の数値に基づいています。

※ ( )内は前年同期比

## 電子・光学関連

売上高 **889億76**百万円 (8.6%増)

営業利益 **144億35**百万円 (31.5%増)

売上高



営業利益



当セグメントの事業部門別の売り上げの概況は次のとおりです。

**アドバンスマテリアルズ事業部門** 売上高 **552億94**百万円 (16.0%増)

### 主要製品

- 半導体関連粘着テープ
- 半導体関連装置
- 積層セラミックコンデンサ関連テープ

5G関連やパソコン、スマートフォンなどの需要増加により、半導体関連粘着テープおよび関連装置、積層セラミックコンデンサ関連テープともに好調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ増加しました。



**オプティカル材事業部門** 売上高 **336億81**百万円 (1.7%減)

### 主要製品

- 偏光・位相差フィルム／粘着加工
- 偏光フィルム／表面加工

光学ディスプレイ関連粘着製品は、期前半は需要低迷の影響を大きく受けましたが、第3四半期に入り大型テレビ用やスマートフォン用などの需要が回復しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ僅かに減少しました。



## 洋紙・加工材関連

売上高 **311億81**百万円 (14.2%減)

営業利益 **27億40**百万円 (21.8%減)



当セグメントの事業部門別の売り上げの概況は次のとおりです。

**洋紙事業部門** 売上高 **144億42**百万円 (13.7%減)

### 主要製品

- カラー封筒用紙
- 色画用紙
- 特殊機能紙
- 高級印刷用紙
- 高級紙製品用紙

主力のカラー封筒用紙をはじめ、色画用紙や耐油耐水紙など、全般的に需要低迷の影響を受けて低調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ減少しました。



**加工材事業部門** 売上高 **167億38**百万円 (14.7%減)

### 主要製品

- 粘着製品用剥離紙
- 光学関連製品用剥離フィルム
- 合成皮革用工程紙
- 炭素繊維複合材料用工程紙

合成皮革用工程紙は第3四半期に入り自動車用で需要の回復が見られましたが、航空機用などの炭素繊維複合材料用工程紙や一般粘着製品用剥離紙は需要低迷の影響を大きく受けました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ減少しました。



### 売上高構成



### 営業利益構成

